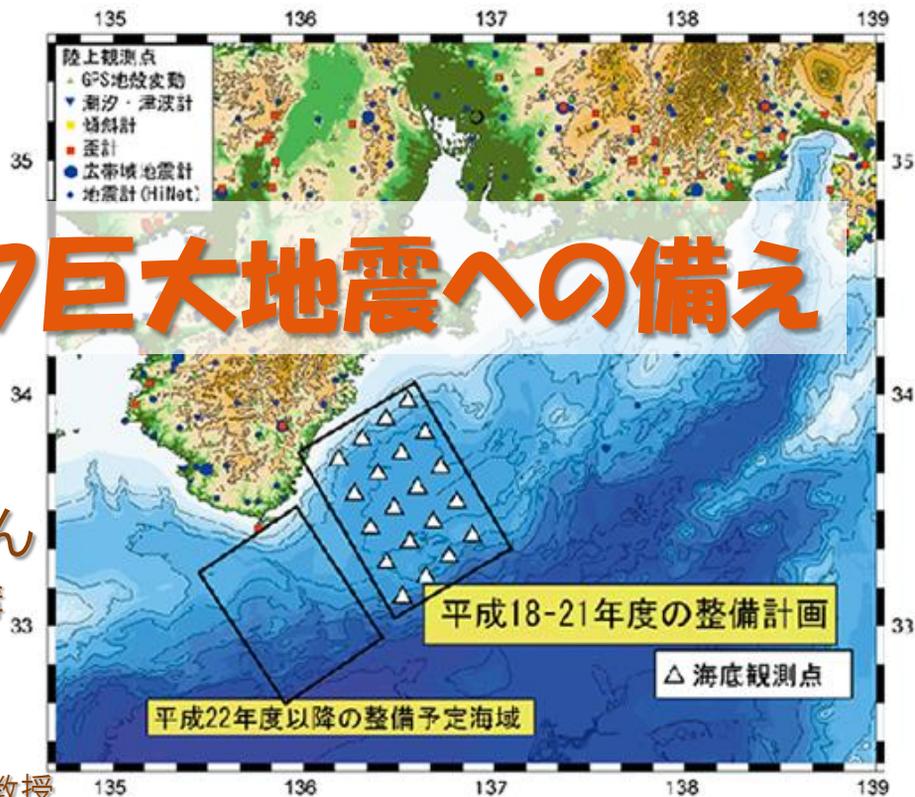


49回サイエンス・カフェ

2011. 2.18 金

18:30-20:30



南海トラフ巨大地震への備え

ゲスト

金田 義行さん

(独)海洋研究開発機構

コーディネーター

室伏きみ子さん

お茶の水女子大学大学院教授

フィリピン海プレートが沈み込む西南日本沖合に存在する南海トラフでは、東海地震、東南海地震および南海地震の3つの巨大地震の巣が形成されている。これらの地震はおよそ100-200年間隔で繰り返し発生しており、発生パターンも多様性がある。例えば、3つの地震がほぼ同時に発生するケースや東南海地震、南海地震は時間差連動するケースがあり、次の南海トラフ巨大地震の発生パターンの推定は日本防災上きわめて重要な課題である。

この巨大地震に備えるためには、リアルタイムデータやスーパーコンピュータを用いた地震の発生パターンの予測精度を向上、また、地震津波の早期検知および地震津波の広域複合災害に対する被害想定的高度化が必要不可欠である。ここでは現在進行している研究プロジェクトの現状と展望について述べる。

会場: サロン・ド・FUZAMBO Folio

千代田区神田神保町1-3 富山房ビルB1

Tel: 03-3291-2578 E-mail: p-m@fuzambo-intl.com

参加費: 1名650円(1ドリンク、デザート付)

主催: 富山房インターナショナル・日本学術会議